



常設展「岡本太郎と太陽の鳥」

2023 年 4 月 20 日(木)～7 月 2 日(日)



岡本太郎《瑞鳥》1987 年

動物とふれあうときも、対等な「生命の瞬間のぶつかりあい」という交歓を求めた岡本太郎。そんな岡本ですが、鳥には特別な関心を寄せていたといいます。岡本は、鳥は「天から降って来た生命である、と同時にわれわれの天上への祈りを媒介するような」存在であると書き記しています。

とりわけ、岡本が「わが究極の友」として愛したのがカラスです。高貴な存在感に加え、群棲動物でありながらもおのおのが独立したあり方を、岡本は理想的な生き方と考えていました。1959 年からの数年間、岡本はカラスの「ガア公」とともに暮らしています。1961 年は、岡本が二科会を脱退したころでもあり、集団から離れ個の芸術家として歩む自分のすがたを、群れからはなれたガア公に投影していたのかもしれません。

本展では、意外にも深い、岡本太郎と鳥の関係に着目し、タイトルに鳥を冠する作品から、くちばしや羽のようなものが描きこまれた作品、また画家としての転機でもあった、ガア公と過ごしたころの作品を展示します。

併せて、2022 年 7 月に開幕し、大阪・東京・愛知と巡回した「展覧会 岡本太郎」に出品された、当館所蔵の岡本太郎の代表作もご紹介します。

開催概要

会場：川崎市岡本太郎美術館 常設展示室

会期：2023 年 4 月 20 日(木)～7 月 2 日(日)

主催：川崎市岡本太郎美術館

休館日：月曜日(5 月 1 日を除く)、5 月 9 日

観覧料：4 月 20 日(木)～4 月 28 日(金)、6 月 27 日(火)～7 月 2 日(日)：

常設展のみ開催：一般 500(400)円、高・大学生・65 歳以上 300(240)円、中学生以下は無料
4 月 29 日(土・祝)～6 月 25 日(日)

セット料金：一般 1000(800)円、高・大学生・65 歳以上 800(640)円、中学生以下は無料
※()内は 20 名以上の団体料金

※企画展開催中は、企画展とのセット料金に変わります。

同時開催：2023 年 4 月 29 日(土・祝)～2023 年 6 月 25 日(日)

「顕神の夢 ―幻視の表現者― 村山槐多、関根正二から現代まで」展

※開催期間等、変更になる場合がございます。最新の情報は当館ホームページにてお知らせいたします。

お問い合わせ

川崎市岡本太郎美術館 展覧会担当：富永、片岡 広報担当：山内、森近 (pr@taromuseum.jp)

〒214-0032 神奈川県川崎市多摩区柵形 7-1-5 生田緑地内

TEL：044-900-9898 / FAX：044-900-9966

<https://www.taromuseum.jp>





みどころ

●鳥にまつわる作品が集結！

鳥がタイトルについた作品だけではなく、「もしかして鳥が描かれているのかも…!?」とを感じるような作品も展示します。岡本太郎の作品にたびたび現れる、くちばしのようなものを持つ生きものたち。また、カラスのガア公との思い出や、岡本太郎が鳥について言及した言葉も紹介します。

●岡本太郎の代表作が戻ってきます！

「展覧会 岡本太郎」(2022 年 7 月 23 日～2023 年 3 月 14 日、大阪中之島美術館・東京都美術館・愛知県美術館に巡回)に出品された、当館所蔵の岡本太郎の代表作もあらためてご紹介します。

●本展は、写真撮影可能です。

(動画撮影、フラッシュ撮影、三脚・自撮り棒・ジンバル等の器材の使用は不可)



《傷ましき腕》1936 年/1949 年再制作



《エクセホモ》1963 年



《鳥》1963 年



《太陽の塔》1970 年

主な出品作品(予定)

- ・油彩 《傷ましき腕》《夜》《重工業》《エクセホモ》《アドレッサン》《夢の鳥》《行列》
- ・彫刻 《瑞鳥》《鳥》《ノン》《太陽》《太陽の塔》
- ・その他 インダストリアル《夢の鳥》、テキスタイル《鳥》等



《夢の鳥》1951 年



《夢の鳥》1977 年



《夜》1947 年

章構成(予定)

- 岡本太郎と鳥
- ガア公とすごしたころ—1960 年代を中心に—
- おかえりなさい！！—展覧会岡本太郎から戻った代表作を展示—

関連イベント

・ワンポイントトーク

担当学芸員が常設展の展示解説を行います。

※イベントの詳細につきましては、当館ホームページでお知らせいたします。
川崎市岡本太郎美術館ホームページ <https://www.taromuseum.jp>

※イベントの開催内容が変更となる場合がございます。

詳細は当館ホームページで随時お知らせいたします。